



〔海の状況 (8/16 ~ 9/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 8月中旬から8月下旬にかけてはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移し、9月上旬から9月中旬にかけて高め(平年差0.5℃~1℃)からはなはだ高めで推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 8月中旬から9月中旬にかけて概ねはなはだ高めで推移した。

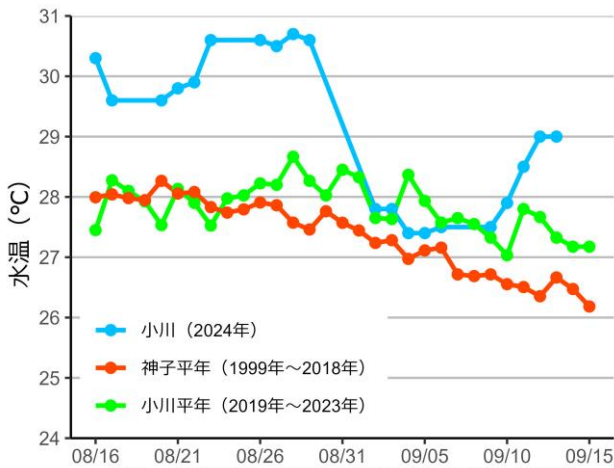


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

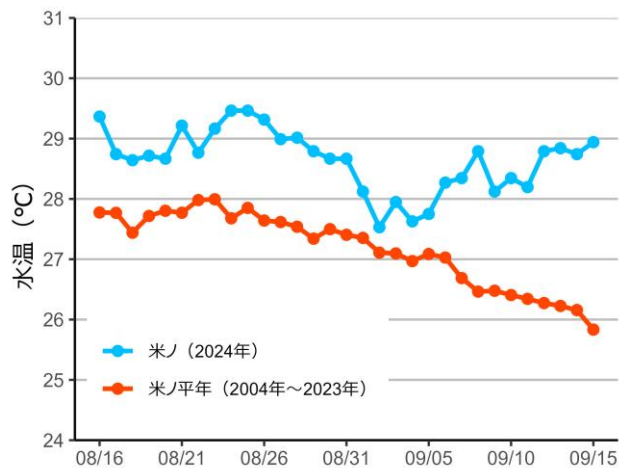


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：8月〕

8月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、今年の水深50mの22℃~28℃の範囲は昨年同時期と比較して沖合に広がっていた。水深100mの6℃~12℃の沖合の冷水域は昨年同時期は確認できなかったが、今年は確認できた。水深200mの0℃~4℃の範囲は昨年同時期と比較して沿岸に広がっていた(図3)。

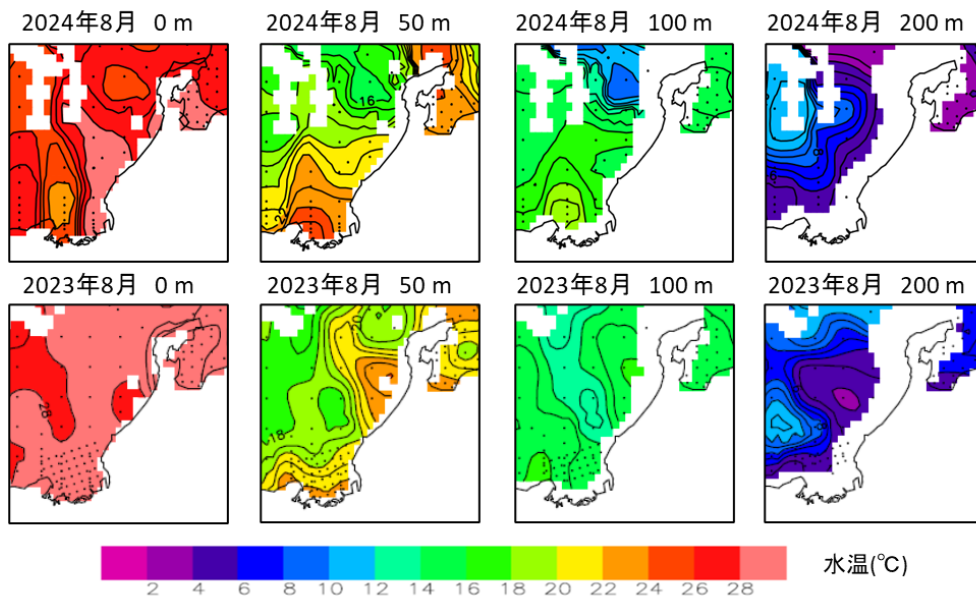


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

大型クラゲ情報

本年度は、各地で大型クラゲの出現が確認されており、福井県でも定置網や底曳網で入網が報告されています。底曳網では1網当たり数個～30個程度の入網が確認されているため、対策網の使用等を検討してください。水産試験場では、調査船による大型クラゲの目視調査を実施しており、9月5日に沖合域での目視調査で1個体(約80cm)を確認しています。

現在、大量漂着は発生していませんが、今後の状況によっては漂着数が増加する可能性があります。今後も水産試験場では調査を行うとともに情報発信に努めてまいります。

(漁場環境グループ 児玉 敦也)

〔県内の漁模様：8月〕

2024年8月の県内の総漁獲量は478 tで、前年同月を132 t上回り、平年を88 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は380 tで、前年同月を128 t上回った。ヒラマサ、サワラ等が上回り、ブリ類等が下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は11.9 tで、前年同月を4.8 t上回った。アカエビが上回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は86 tで、前年同月を1.7 t下回った。タイ類、アマダイ、スルメイカ等が上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(8月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
イワシ類	3,240	6,826	9,255	-3,587	-6,015	アカエビ	11,206	6,641	14,159	4,565	-2,953
(カタクチイワシ)	2,357	5,286	6,693	-2,929	-4,336	その他	706	472	1,375	234	-669
アジ類	20,362	11,829	29,881	8,533	-9,519	合計	11,912	7,113	15,533	4,798	-3,621
(アジ)	2,378	4,732	7,101	-2,354	-4,723	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(小アジ)	17,159	5,956	21,182	11,203	-4,023	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
サバ類	48,354	52,202	21,819	-3,848	26,535	タイ類	8,925	8,160	14,906	765	-5,981
(サバ)	37,272	47,951	18,679	-10,679	18,594	(キダイ)	8,605	7,535	13,963	1,069	-5,358
(ピンサバ)	11,082	4,251	3,141	6,831	7,942	アマダイ	10,356	7,645	18,650	2,712	-8,294
マグロ類	1,154	737	869	416	285	スルメイカ	16,151	13,461	18,444	2,690	-2,293
カジキ類	8,137	1,764	3,362	6,373	4,774	タコ類	7,403	6,275	10,363	1,128	-2,960
カツオ類	1,497	759	2,740	738	-1,243	その他	43,274	52,258	79,865	-8,984	-36,591
ブリ類	42,899	49,411	103,437	-6,512	-60,539	合計	86,109	87,799	142,228	-1,689	-56,119
(ハマチ)	19,547	25,295	30,723	-5,748	-11,176	全漁法 (kg)					
(ツバス)	16,629	10,887	42,935	5,742	-26,306	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(アオコ)	6,467	6,936	23,709	-469	-17,241	合計	478,026	346,443	565,565	131,583	-87,539
ヒラマサ	19,760	2,537	5,025	17,223	14,735						
シイラ	81,566	58,727	71,848	22,840	9,719						
サワラ	137,522	38,159	124,409	99,363	13,113						
タイ類	3,819	3,001	6,182	818	-2,363						
(マダイ)	1,978	1,647	3,583	330	-1,606						
(その他タイ)	1,838	1,353	2,569	485	-730						
スズキ	1,164	2,821	4,083	-1,657	-2,919						
カマス	2,519	1,494	3,348	1,024	-829						
その他	8,013	21,264	21,546	-13,251	-13,533						
合計	380,005	251,531	407,804	128,474	-27,799						

※1 平年の値は2014～2023年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他タイはマダイ、チダイ、キダイ以外のタイ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：8月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：8月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：8月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：8月中旬～9月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マサバ152 t、マアジ21.8 t、フクラギ19 t、サワラ・サゴシ14 t、シイラ10 t

京都府…定置網…サワラ100 t、混じり85 t、サバ類68 t、ブリ37 t、シイラ31 t、ヒラマサ26 t

兵庫県…定置網…ヒラマサ984 kg、マサバ930 kg、アジ578 kg、カジキ165 kg、スズキ143 kg、イシダイ129 kg

鳥取県…まき網…マアジ1,239 t、マイワシ658 t、ブリ類538 t、マサバ337 t、ウルメ17 t、

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

ハダムシの対策の試み

〈ハダムシについて〉

ハダムシは魚の体表に寄生する寄生虫で、いくつかの種類が知られています。福井県の養殖場では、主に2種類のハダムシが発生しています。マハタハダムシ *Benedenia epinepheli* は名前の通りマハタに寄生します。シンハダムシ *Neobenedenia girellae* (図1) は夏場に出現する種類で、トラフグ、マハタ、ヒラメなど多くの魚に寄生するのが特徴です。



図1 トラフグに寄生していたシンハダムシ (全長約4mm)

ハダムシは吸盤状の固着器を使って魚の体表に吸着し、粘液や体表組織を食害します。ハダムシが大量に寄生することで魚は餌を食べなくなり、生簀網に体を擦り付け体表に傷ができることで病原菌に感染する原因になります。福井県では夏から秋にかけてトラフグやマハタで発生して問題になります。

ハダムシを駆除するには、淡水浴や薬浴(過酸化水素製剤)が有効で、現場で実際に行われています。高水温期の薬浴は魚に大きなストレスを与え、へい死が起こることもあり注意が必要です。トラフグについては過去に高水温での薬浴試験を行っています。マハタについてはこれまで高水温期の薬浴試験は行っていませんため、今回試験を行いました。

〈マハタの高水温での薬浴試験〉

マハタを対象に高水温(約28℃)で薬浴を行い、へい死が起こらないかを検証しました。すべての試験区で、水量は1トン、1歳魚(200~300g程度)のマハタ20尾を收容して試験を行いました。薬浴区で使用した薬剤はムシオチール®(共立製薬)で濃度は217g/トン、時間は30分としました(用法・容量の上限)。淡水浴区では海水を淡水で1/6に薄めて、5分間淡水浴を行いました。対照区は海水に30分收容しました。薬浴開始から30分経過後、すみやかに換水を行いました。その後、観察を行い、へい死が発生しないか確認を行いました。試験中の水温を表1に示しました。淡水浴には地下水を使用しているため、水温が低くなっています。

結果として、全ての試験区でへい死は見られませんでした。そのため、約28℃でもマハタの薬浴は可能であると考えられました。ただし、魚の状態(魚の大きさや、傷の有無、摂餌の状況等)によっては、上記の濃度でもへい死が起こる可能性があります。実施する場合は用法・容量を確認し、数尾で試したのち、生け簀全体の薬浴をしてください。

表1

	対照区	薬浴区	淡水浴区
開始時	28.3℃	28.3℃	20.5℃
20分後	28.3℃	28.4℃	—
30分後	28.3℃	28.4℃	—

〈薬浴・淡水浴方法〉

	薬浴	淡水浴
マハタ	ムシオチール®を163~217g/トンの割合で海水に薄めて30分薬浴	淡水5:海水1の割合で混合した水で3~5分淡水浴 (例:淡水800L:海水160L)
	<u>薬浴(25~29℃)</u>	<u>薬浴(25℃未満)</u>
トラフグ	ムシオチール®を163~217g/トンの割合で海水に薄めて30分薬浴	ムシオチール®もしくはマリンサワー®SP45を650g/トンの割合で海水に薄めて20分薬浴
		淡水で3~5分淡水浴

〈ハダムシの情報の発信〉

水産試験場では、養殖業者の方々にご協力いただきハダムシの発生状況をモニタリングして、情報発信を行っています。薬浴や淡水浴を実施する際の参考にしていただければと思います。今後もハダムシ被害を減らすための取り組みを行ってまいりますのでご協力をお願いいたします。

(栽培漁業センター 谷保 文野)